

桜の便りが近づきつつありますが、当地ではまだ雪が舞うといった、不順な天気が続いています。気温も低く、降水量が多い中で、圃場の準備も思うように進まない状となっています。こうした気象条件下では無理して作業を進めると、野菜が低温障害を受けたり、土壌条件が不良で根が湿害を受けたりするなどして生育が不良となります。条件が良くなってから作業を進めたほうが、結果的には生育も良好となります。

### 3月の気象経過について

今年度の3月の気象を見てみますと最も目立つのが日照時間の短さです。30日までの1日あたりの日照量は2.8時間と平年値の64%しかありません。従って光合成が充分できていないため、苗物の生育が停滞します。こうした時に温度だけかけてゆきますと苗が軟弱徒長してしまいますので、温度設定や水遣りを押さえ気味にして管理する必要があります。

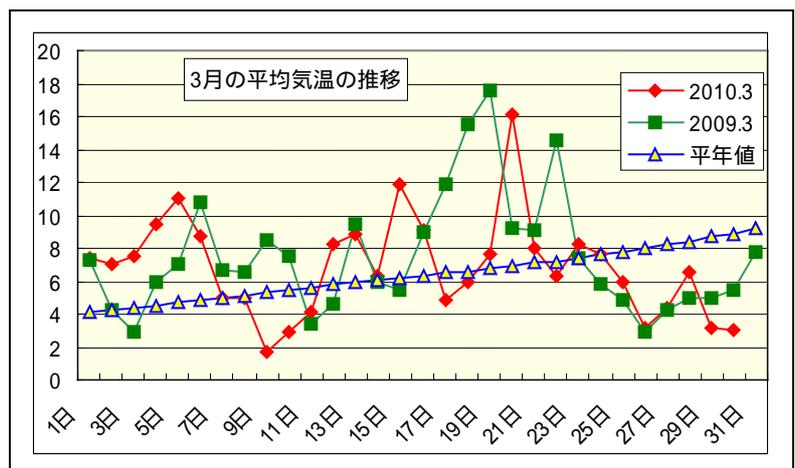
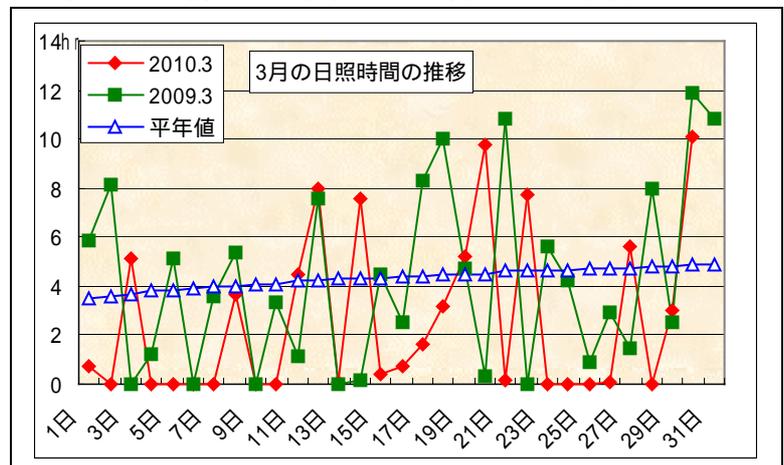
また、一部トマトやメロンの定植がなされていますが、夜間の温度がかなり低くなっていますので、十分な保温対策が講じられなければなりません。無加温ハウスでは30日明け方では-1~-2となっており、寒さによる葉の萎れやが観察されています。こうなりますと、トマトやメロンの花芽に異常が出る可能性が極めて高くなり、品質・収量に影響が出てきます。一方、晴天日は換気が遅れますと10時過ぎには40を越えています。ハウス温度の設定は最低10から最高30が目安で



トマトの寒さあたり



あるハウスの実測温度



すので、最近の天候の下ではこまめな管理が必要となっています。また、降水量の方は30日までで219mmと平年比147%となっており、露地圃場の乾く暇がなく、春ブロッコリーの圃場準備ができない状況となっています。苗の成長が進みますので、温度を低く、灌水を絞った管理をしなければなりません。

## 園芸相談 Q&A

Q:ジャガイモを切断して置いたが、天候が悪く植えつけられないまま芽が伸びすぎてしまったがどうすればよいか？

A:ジャガイモの芽については通常であれば 5mm から 1cm くらいの状態で、芽の先端が開いていない状態で植えつけます。ジャガイモの芽の基は複数ありますから、伸びすぎた芽は掻き落して植えても問題はありません。

Q:切断しておいたジャガイモの芽がチリチリになってきた、どうすればよいか？

A:状況をお聞きしたところ、ジャガイモを切断後、ベランダの出っぱなしにしておいたとのことでした。27 日も福井市内の観測値で -0.9 を記録しています。従って、ジャガイモの芽が凍害に遭ったものと思われれます。問題のある芽は掻きとって植えてください。

Q:切断しておいた種芋が萎びてきた。どうしたらよいか？

A:種芋は、基本的に 50g 程度となるよう切断するところですが、かなり小さく切ってしまったようです。余り萎びると芽の勢いがなくなってしまう、生育が劣ってしまいます。今後は風や日光のささないところに移すなどして、乾きが進まないようにして下さい。次年度から、できるだけ切り口が小さくなるよう切断方法に工夫するとともに、小さく切り過ぎないようにして下さい。

Q:ジャガイモの株間に肥料をおいてやると良いと聞きましたがどうすればよいか？

A:家庭菜園では株間に牛糞堆肥などを置肥として使用されているのを見かけます。こうしておくことで降雨の度に肥料分がしみ出て生育が良くなるという考えだと思います。しかし、この場合は完熟したものを使用してください。未熟の物を使用されるとタネバエなどの害虫がよってきて、産卵し、幼虫が種芋を食い荒らすという事態になりかねません。



Q:タマネギの葉に赤い点々ができているがどうしたらよいか？

A:タマネギのサビ病と思われる。サビ病はニンニクや長ネギ、ラッキョウなどによく発生します。病原菌はこれら作物に共通しているといわれております。従って夏場は長ネギ、冬場はニンニク、タマネギなどに寄生し年中どこかで発生する状況になっており、家庭菜園などでは防除が徹底されません。防除農薬の登録はネギやニンニクでは若干ありますが、タマネギの場合は重要病害となっていないためか、登録農薬は少なくジマンダイセン水和剤くらいしかありません。この農薬は治療効果はありません。予防が中心です。なお、窒素の施用が多すぎたり、少なすぎたりする場合も発生が多くなると言われておりますので、適正施肥を心がけてください。

Q:サトイモの肥料は何を使ったらよいですか？

A:サトイモは植え付けから収穫まで約半年ほどかかりますので肥効の長いものが良いような感じを受けますが、品質の良いイモを作るためには、お盆ごろまでに肥料を効かせ、体を作ってやり、光合成能力を高めてイモを育てさせます。そのために適当な JA 扱いの肥料としては「固形 30 号」や「IB 化成 S1 号」などです。同じ芋でも、カンショやパレイショとは違って、サトイモは地上部が立派ですと、イモも多く収穫できますので、三要素のバランスはフラット型を選びます。なお、初期の立ち上がりを良くするため若干「あさひ」を施用することもあります。マルチ栽培の場合は基本的には追肥しませんが、露地の場合は土寄せの際に追肥を行います。